

# ① 東南アジアの小規模農家のための経済性を備えた温室効果ガス排出削減技術の開発 【継続】

- ▶ 東南アジアは、世界的なコメ生産地域。近年、畜産業も急激に拡大。このため、**水田や家畜ふん尿からのメタン等の温室効果ガス（GHG）の排出削減**が、緊急かつ重要な課題。
- ▶ 他方、**東南アジアの零細小規模農家へのGHG排出削減技術の導入**を加速するためには、①低メタンイネ在来品種など、**その地域で入手可能な資源（地域資源）**を効果的に活用する、②**農家が生産性向上などの直接的なメリット**を得られるなど、**現地の実情に即したもの**とすることが重要。
- ▶ 温室効果ガスの排出を削減し、東南アジアの農家が実践可能で直接的なメリットが得られる、**イネ栽培管理技術及び家畜ふん尿処理技術**を開発。

## 目標達成に向けた現状と課題

- ・**水田や家畜ふん尿がGHG排出の原因**として批判されていて、困るよ。
- ・GHG排出削減技術の導入が謳われているが、**農家が見られる直接的なメリットが小さい**ので、なかなか農家にはピンとこない。
- ・GHGの排出削減ができて、かつ、**農家にもメリットがある新たな技術**が欲しい。

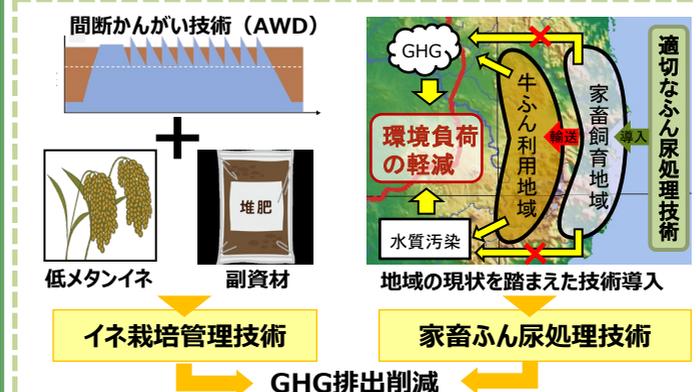
<イメージ> 技術普及員



## 必要な研究内容

- ・**間断かんがい（AWD）に、低メタンイネ在来品種や堆肥などの地域資源**を組み合わせることにより、**低メタン排出と高生産性を両立し、農家が実践可能なイネ栽培管理技術を開発。**  
（目標：水田からのGHG排出60%削減）
- ・**家畜ふん尿の利用の現状把握、低GHG排出家畜ふん尿処理技術の利用等を通じて、家畜ふん尿を付加価値の高い地域資源（施肥資材、バイオガス等）として活用する畜産業からのGHG排出削減システムを開発。**  
（目標：家畜ふん尿処理過程でのGHG排出20%削減）

<イメージ>



## 社会実装の進め方と期待される効果

（「みどりの食料システム戦略」KPI達成への貢献）

- ・国研等が有する国際研究ネットワークを通じて、**我が国がGHG排出削減に資する技術開発を主導。**
- ・地域資源の活用と経済的利益の向上の相乗効果により、**現地の零細小規模農家への技術導入が促進。**

・東南アジアの水田面積の15%、畜産業者の5%にGHG排出削減技術が普及されることで、**地球規模課題の解決に貢献。**

・東南アジアの各地域の食料システムを支える**零細小規模農家の営農について、生産性の向上と持続性の維持。**

